

新人紹介

医局 荒木 さくら

大津町出身、医師3年目です。入院や訪問診療、救急などを担当させていただきます！よろしくお願いします。



3階病棟 竹口 将矢

いつか、医療の最前線で活躍できるように！時には先輩方の力もお借りしながら、日々成長していきます。



歯科 上田 美加

病棟の口腔ケアや外来歯科でお世話になっています。火・水曜日は菊陽病院の歯科勤務です。エキゾチック・ロングヘアーの愛猫に日々、癒され私の活力です。御指導の程、よろしくお願いします。



ぽっぽ保育園 岩本 ひなた

子どもと様々な体験をして、楽しい保育をしていきたいです。また子どもたちと病院の利用者さんとの触れ合いも楽しみにしています。よろしくお願いします。



院長の独り言② ～「ゼロサム思考について」～

今回は、聞かれたこともあると思いますが、「ゼロサム思考」について考えました。

ゼロサム思考とは、「誰かが得をすると自分が損をする」という考え方です。アメリカでは最近、この考え方が社会を分断する要因の一つとして注目されています。トランプ大統領や某●●党党首が主張する「自国民ファースト」は自国民が利益をあげるために、自国民以外に損をさせる、という発想ですので、ゼロサム思考と言えます。「ゼロサム」というのは英語で zero-sum と書きます。これは、“sum”＝合計という意味で、全体の合計がゼロになるという考え方です。たとえば、誰かが10点得をしたら、誰かが10点損をするから、全体ではプラスマイナスゼロ、ということです。

これはゲームとか競争の世界でよくある考え方で、「誰かが勝てば、誰かが負ける」という、奪い合いの構図です。勝つか負けるか、

戦争と同じで殺伐とした考え方です。

でも、私たちの医療現場は、そうではありません。患者さんが元気になること、回復して笑顔で帰っていかれること、それは誰か一人の成果ではなく、チーム全員の努力の賜物です。だからこそ、私は「誰かの成功と一緒に喜ぶ文化」を大切にしたいと思います。

民主主義が習熟するためには、手間暇かけて、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」する議論も必要です。私たち日本人はそのための時間のかかる過程を放棄してしまいがちですが、気づいたら、戦争に加担していることにならないようきちんと議論しあう文化も作るべきでしょう。

さて、我が家の猫たちは、ゼロサムは関係ないようで、ただただ我が道を行く感じで好きなように好きなことをしています。あーうらやましい!!



黒ねこベル嬢



食いしん坊のハル



仲のいいハルとコハル



社会医療法人 芳和会

くわみず病院だより

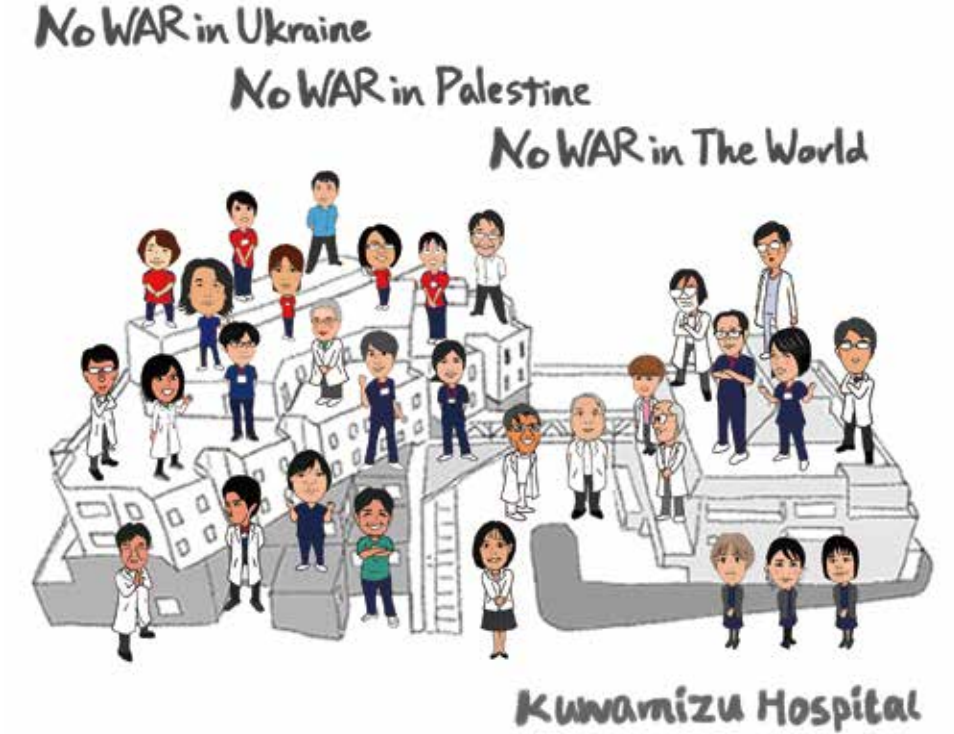
No.79

発行責任者：池上 あずさ 発行所：社会医療法人芳和会くわみず病院 〒862-0954 TEL 096-381-2248
住所：熊本市中央区神水1-14-41 <https://www.kuwamizu.jp/> SAS予約sas_ctr_ap@kuwamizu.jp

- くわみず病院理念
1. 無差別・平等の医療と福祉の実現を目指します
 2. 保健予防・急性期から慢性期、リハビリ、在宅医療まで人の生涯にかかわる医療と介護を提供します
 3. 安心して住み続けられるまちづくりの拠点となります

CONTENTS

1	平和国家としての選択—これからの日本と安全保障をめぐる
2	呼吸リハビリテーションできらめていたことを「できる」にしましょう
3	「大腸がん検診、受けてますか? ~ポリプを切って未来を守る~」
4	平和クリニック統合について
5	くわみず病院 通所リハビリテーションのご案内
6	八王寺の杜の紹介
7	第42回くまもと健康まつりについて
8	核兵器禁止条約第3回締約国会議に参加して
9	「病院機能評価」認定されました「病院公式SNSははじめました!」
10-11	提携医療機関紹介 わかばクリニック みんなの熊本クリニック
12	新人紹介 院長の独り言



平和国家としての選択—これからの日本と安全保障をめぐる

副院長 赤木 正彦

日本は戦後、平和主義を国の基本方針として掲げ、憲法第9条により戦争放棄と戦力不保持を明記してきました。これにより、自衛の範囲を超える軍事行動は厳しく制限されてきましたが、近年、その枠組みに変化の兆しが見られます。

たとえば、政府が「反撃能力（いわゆる敵基地攻撃能力）」の保有を正式に打ち出したことは、これまでの専守防衛の原則を見直す動きとして注目されています。また、防衛費の増額も進められており、2027年度までにGDP比2%を目指す方針が掲げられています。これにより、国民の間にもさまざまな受け止め方が生まれています。

あわせて、日本学術会議をめぐる制度改革についても議論が起こっています。政府の関与のあり方や、軍事技術と学術研究との関係性など、学問の自由と安全保障のバランスをどう図るかが問われています。

また、政治的な多様性の中で、安全保障を重視する声が一定の支持を集めている一方で、医療や福祉への財政支出が制約を受けている現状にも注目が必要です。国民負担の増加や社会保障の見直しが進む中、限られた財源の使い道について、より深い議論が求められているのではないのでしょうか。

私たちは今、国家としてどのような未来を描き、何を優先するのかという問いに直面しています。安全保障と平和のあり方は決して一面的ではなく、多様な価値観や立場からの対話が不可欠です。

「平和を守る」とはどういうことなのか。軍備の整備か、対話と協調か。あるいはその両立か。医療に関わる私たちもまた、いのちを守る立場から、この大きな社会の流れに関心を持ち続けることが大切だと考えます。これからも、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、対話と共生の姿勢を大切にしていきたいと思います。

呼吸リハビリテーションであきらめていたことを「できる」にしましょう

リハビリテーション科 中尾 良美

「同年代の人よりも歩くスピードがゆっくり」
「少し歩くだけでも息切れがあるから、動きたくない」
「なかなか痰がでない」

こんな症状はありませんか？コロナによる体力低下や年齢のせいばかりではありません。

当院では慢性の呼吸器疾患（COPD、気管支喘息、間質性肺炎など）に対して、包括的リハビリテーションを行っています。短期間（3週間）の教育入院で、主治医、看護師、呼吸療法認定士（看護師・リハビリ）、管理栄養士、薬剤師、社会福祉士などが関わり、不安や疑問を確認しながら進めていきます。



包括的呼吸リハビリテーション

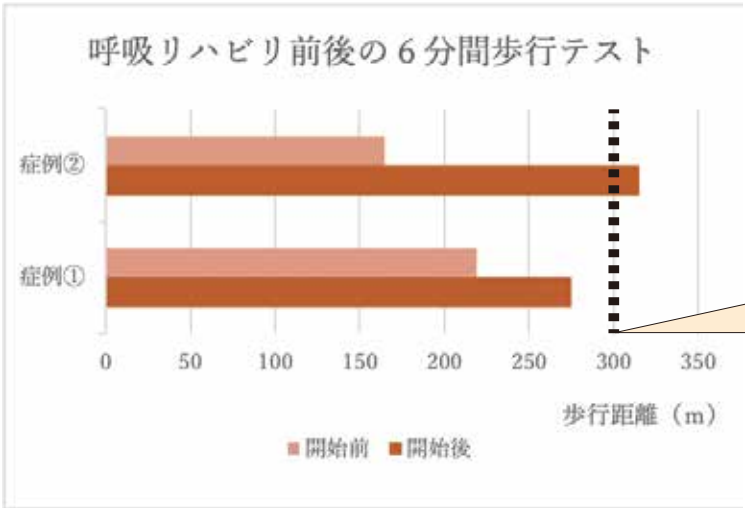
効率の良い呼吸法や適切な運動方法、自宅内の環境調整などを行い生活空間の拡大を目指していきます。

【内容】

- ① 症状に合わせた「運動療法（筋力や体力の向上、呼吸法指導）」
- ② 自分の病気を理解して治療に取り組むための「セルフトレーニング」
- ③ 食事の見直しなどの「栄養療法」
- ④ 治療を効率よくするための適切な「吸入指導」
- ⑤ 患者や家族に対する「心理的・社会的支援」
- ⑥ 不安や抑うつ、QOLの改善

呼吸リハビリによる改善例

当院では呼吸リハビリ開始前後に6分間歩行テストを行います。6分間歩行テストとは運動時の心肺機能（呼吸困難感）や運動耐容能力をみる事が出来る検査です。



※病態により呼吸リハビリの効果には、個人差があります。



パルスオキシメータエニパルウォークを使用し測定しています。

300m未満では、予後不良のリスクが高くなります。当院では300mを目指して呼吸リハビリに取り組んでいます。いつでもお気軽にご相談ください。

「大腸がん検診、受けてますか？ ～ポリープを切って未来を守る～」

内科診療部長・医局長 財津 翔

皆さんこんにちは。「健康のために何かしていますか？」と聞かれて「野菜を食べてます」「歩くようにしています」と答える方は多いですが、「大腸がん検診、毎年受けてます！」という方はそんなに多くないかもしれませんね。でも、ちょっと待ってください。日本人がもっとも多くかかるがんの一つが「大腸がん」なんです。初期の大腸がんはほとんど症状がなく、放っておくと知らぬ間に静かに進行してしまいます。大腸がんの多くは大腸ポリープ（良性のイボ）がだんだん大きくなって癌化するものですが、初期のうちは腹痛や便秘などのサインを全く出してくれません。なので、「自覚症状がないときこそ、検診が大切！」というわけです。

「検便で陽性って言われたけど、特に何もないし…」と放置している方。これは、火災報知器が鳴っているのに「まあ、うちの誤作動だから」と無視しているのと同じです。どうか一度、大腸内視鏡を受けてみてください。お尻にカメラを入れるのはちょっと…というお気

持ちも分かりますが、検査は鎮静剤でウトウトしている間に終わることも多く、「思ったより楽だった！」という方が大半です。

そして最近、当院では「コールドポリペクトミー」という治療方法を導入しました。なんだか冷たそうな名前ですが、これは「ポリープを焼き切らずに取る方法」で、従来の方法よりも出血のリスクが少なく、体への負担も小さいのが特徴。言ってみれば「ポリープを、そっと優しく取る」テクニックです。

小さなポリープを見つけて、すぐその場で切除できる。これは、未来の大腸がんを一つ防いだことにもなります。検査から治療までがスムーズにつながるのも、内視鏡の魅力ですね。

健康は、何よりの財産。そしてその守り方は、「早めの検診」と「確かな処置」です。ちょっと勇気を出して、今年こそ一歩を踏み出してみませんか？ 未来のあなたが、きっと感謝してくれるはずですよ。



平和クリニック統合について

医局 牟田 喜雄

2025年3月末で平和クリニックはくわみず病院へ統合となり、閉院式、引っ越しと大変お世話になりました。私は4月からくわみず病院で内科医師として勤務しております。33年間にわたった平和クリニック時代がなつかしく思い返され、他院へ紹介した患者さんがどうされているか偲んだりしております。

くわみず病院ではいろんなシステムが変わり、最初はとまどいもありました。特に電子カルテが全く変わり、色々な便利な機能がある反面その操作に慣れるまでが大変でした。電子カルテの操作をはじめ色々なことで周囲の方々に暖かく援助していただき、ようやく慣れてきたところです。

くわみず病院へ転院された患者さんの外来診療（一般内科、振動障害）、訪問診療を担当し、必要に応じて過去データを参照しながら診療しています。

平和とくわみずは近いようですが、患者さんからはくわみずになって遠くなり通院が大変、平和クリニッ

クが良かったという声も時々聞かれます。私も通勤距離が倍になり、早寝早起きの生活が増えました。

振動障害新規労災申請への対応や80数名分の定期報告書の作成が大変ですが、時間外の

対応や管理業務がなくなったりで、平和クリニックの頃より業務は軽減されたと感じています。慣れ親しんだ先生に続けて診てほしいという患者さんの要望に沿えるようにがんばっていきたいと思っています。

まだまだ分からないことで周囲の皆様の手を煩わせることと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



くわみず病院 通所リハビリテーションのご案内

通所リハビリテーション
科長 岩川 真紀

当事業所では、地域の皆様が健康で笑顔あふれる毎日を過ごせるよう、専門スタッフによる質の高いリハビリテーションやケアを提供しています。退院後のリハビリが必要な方、日常生活動作に自信をつけたい、心身機能の維持・向上を目指したい、そのような介護認定を受けた方々にご利用いただいております。

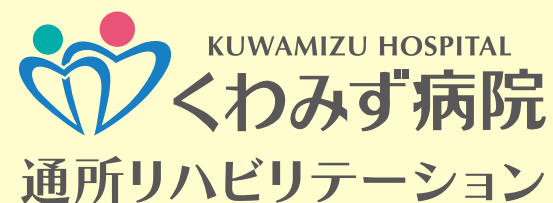
病院併設の強みを活かし、医師、看護師、療法士、介護士がチームを組み、利用者さんの健康状態をきめ細かく把握、利用者さんの状態に合わせて、ケアマネジャー等と連携を取りながら「困りごと」や「目標」の確認を行い、さまざまなニーズに対応しています。アットホームな雰囲気の中、スタッフが笑顔で寄り添い、利用者さんが「来てよかった」と思える環境を大切にしています。

また、理学療法士や作業療法士による個別リハビリを軸に、一人ひとりの状態に合わせたプログラムを提供しています。筋力トレーニングや関節可動域の改善、歩行訓練など、リハビリ機器を活用し、身体機能の維持・向上をサポートしています。また、言語聴覚士によ

る「食べる・話す」機能の回復を図る訓練も行っています。レクリエーション活動（園芸・調理・手工芸・創作・外出等）では、利用者さん同士が日々話に花を咲かせつつ、楽しく活動に取り組んでおられます。

また季節ごとのイベントも多数企画し、利用者さん同士の交流を通し、心身ともに充実した日々を送っていただけるよう努めています。さらに、管理栄養士が監修したバランスの良い食事の提供や、無料歯科検診等も実施しています。病院併設ならではの特徴を活かし、手厚い医療サポート体制で、急な体調変化にも迅速に対応しています。

利用者さんにおいては、心身ともに健康に過ごしていただき、ご家族にとっては、介護負担の軽減に寄与することで、利用者さん、ご家族ともに安心して利用できる場所として、現在ご好評いただいております。これからも地域に根ざした施設として、利用者さんの健康と幸せを支える良きパートナーでありたいと考えています。一緒に、充実した毎日を作りませんか。



「リハビリに興味がある」
「どんな雰囲気か見てみたい」
という方は、お気軽にご相談ください。



Instagram
はじめました！



お問い合わせ／TEL.096-381-8738
受付時間／平日9:00～17:00

八王寺の杜の紹介

八王寺の杜には4つの事業所が入っており、それぞれの特徴についてご紹介します(^ ^)

サービス付き高齢者住宅

介護認定が自立あるいは要支援・要介護(1・2程度)の高齢者を受け入れており自由度が高く、日中は明るく元気な生活相談員が常駐し、入居者の安否確認や様々な生活支援サービスを提供しています。3階は部屋に浴室も完備しており、少し静かな印象です。2階は共用の浴室があり、ヘルパーさんの介入も可能です。共用のテラスには入居者の方が草花を育てており、皆さんの目を楽しませています。

★6月現在、2階が1部屋空いております!!ご希望の方、まずは見学を(^ ^)

居宅介護支援事業所

当施設には3人の介護の専門知識を持つ優秀なケアマネージャー(介護支援専門員)が常駐しており、ケアプラン(居宅介護サービス計画)の作成から、介護相談、介護サービスに関する手続き、代行などを行っています。月1回は自宅訪問を行い、自宅での状況を確認しています。可能な限りその方が安心して生活できるようサービス調整を行っています。

訪問看護ステーション

スタッフ6名です。同じフロアに居宅介護支援事業所もあり、ケアマネージャーと連携が取りやすくなっています。訪問看護は専門のケアが必要な利用者であっても、住み慣れた自宅で生活を送る事ができるためニーズが高まっています。病院とも連携を取りながら利用者さんの在宅生活を支えていきたいと思ひます。毎日の点滴や自宅や施設での看取りにも対応しています。病院に相談しにくいことも、ご自宅で看護師が相談対応していきます。

看護小規模多機能型居宅介護

看護小規模多機能型居宅介護(看多機)は、介護保険法で定められた地域密着型サービスのひとつで、「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」「ケアプラン作成」のサービスを一体化した事業所です。利用者に合わせた個別なケアを行い、利用時間も利用者や家族に合わせて対応可能で、日中は看護師が在中していますので、点滴などの医療処置にも対応しています。がん末期の方でも看取り対応できます。緊急ショートステイの対応もしていますので、他のサービス利用中の方でもまずはご相談ください。



八王寺の杜／熊本市中央区国府3丁目19-42 TEL.096-375-7124

第42回くまもと健康まつりについて

検査科 堤 義隆

2025年5月11日(日)に第42回くまもと健康まつりが開催されました。実行委員会を立ち上げ、今回で3回連続の健軍商店街アーケード内が会場となり、商店街スタッフの理解と協力のうえ、前回よりアップデートした内容でした。

副実行委員長はくわみず病院の池上院長が担い、病院職員もスタッフ要員として感染対策をしながら医療や生活についての相談コーナーや測定コーナーを中心に参加しました。天候は今年も雨が降って風も強く肌寒い環境でしたが、来場者数は約1000名の参加でした。参加者から「いろいろな相談事やアルコールパッチテストなど調べる事ができて良かった」「骨密度測定や血管年齢測定、身体測定など、このまつりでしか出来ない測定や相談ができるので毎年楽しみにしている」「バザーして健康チェックもできてとても良かった」など

数多くの意見をいただき、健康を味わい考えることができていたようです。他にも江津湖周辺ウォーキング企画や飲食バザーも多くの人で賑わい楽しんでいました。

またステージではくわみず病院青年職員が司会を担当して、ダンスや吹奏楽演奏、最後の抽選会など、多くの参加者に囲まれながらも周囲の方々と協力して、商店街スタッフからも好評でした。

スタッフ要員として参加された職員からは机や椅子、ステージなど準備から片付けまでスムーズに行えて、とてもやりやすかったと好評な意見が多くありました。

今回も商店街スタッフと協力しながら、とても楽しめた「まつり」になりました。また次回の健康まつりで会いましょう。



核兵器禁止条約第3回締約国会議に参加して 医局 荒木 さくら

くわみず病院で総合診療科の専攻医をしています、医師3年目の荒木さくらです。反核医師の会という反核活動を行う団体に所属しており、今年の3月3日から7日にかけてニューヨークで行われた核兵器禁止条約の第3回締約国会議に参加してきました。締約国会議参加にあたり民医連の方々からもたくさんのご支援を頂きました。本当にありがとうございました。

締約国会議に参加して、核兵器禁止条約の盛り上がりは核戦争の緊張感の高まりと表裏一体でもあるのだなと感じました。会議のなかで世界全体として核兵器開発につき込まれるお金がどんどん増えており、核開発が激化している現状が共有されました。核保有国は核兵器を自国の安全保障のために保有しているが実際に使うことは想定していないと主張しますが、1か国でも核を保有していれば、他の国も核を手放すことはできません。システムの誤作動やヒューマンエラーなどで意図せず核兵器が使用されるリスクについても指

摘され、核兵器が一つでも存在すればそれは人類にとって安全保障上のリスクであるという議論が行われました。先日、アメリカによるイランの核施設への攻撃も起こりました。もし巨大な核爆発につながっていたら、もしイランが報復をしたらと想像するととても恐ろしく、改めて核兵器が存在するということの危険性を痛感しました。

核兵器禁止条約の普遍化についても議論されましたが、核兵器禁止条約の認知度をあげ、核兵器についての議論を広げていくことは、会議場の中だけで行えるものではなく、私たち市民に託されている部分が大いと感じました。今回の会議参加を通じて、日本国内外の核廃絶の活動をしている方とも知り合うことができました。今後、いろんな人と連携しながら日本国内での核兵器禁止条約の盛り上がりをつくっていかれたらと思っています。



「病院機能評価」認定されました 医局事務課長 迫田 佐枝子

2025年3月25日～26日に当院は、日本病院機能評価機構のサーベイヤーによる評価を受けました。「病院機能評価」とは、病院の運営管理や提供される医療の質を中立的・科学的な視点から評価する制度で、患者中心の医療の推進・良質な医療の実践(診療・ケア)・良質な医療の実践(病院組織の機能)・理念達成に向けた組織運営が大まかな評価項目です。この評価を受ける利点は①病院の問題点を明確化し、改善のきっかけを得られる。②第三者の視点で評価されるため、公平な視点である。③認定証の取得により、病院の質の高さをアピールできる事が挙げられます。日本病院機能評価受審の結果は、評価最高ランクであるS評価：2項目、次のA評価：73項目、B評価：12項目(計87項目)となり、2025年8月8日に無事に認定証が届きました。病院機能評価を受審するにあたり、多くの職員が関り業務内容を見直

すよい機会になったと思います。引き続き、当院は皆さんにより質の高い医療を提供できるよう、改善し続ける仕組みを構築中です。



サーベイヤーの質問に全職種が参加して回答中

「病院公式SNSはじめました!」 事務長 本高 勝久

病院公式のソーシャルネットワーキングサービス(SNS)として、今年の2月にLINEの運用を開始、3月には通所リハビリのInstagram、そして8月には病院のInstagramの運用を開始しました。公式LINEは週1回配信しており、休診の情報やその時々の特典として病院ウェブサイトにはアップしている内容をプッシュ

型でお知らせしております。Instagramでは、日々の取り組みをたくさん写真で紹介しております。LINEもInstagramも、ぜひフォローをお願いいたします!当院よりタイムリーに発信してほしい情報がありましたら、ご意見・ご要望等お寄せいただけますと幸いです。



提携医療機関紹介

わかばクリニック



熊本市東区のわかば会では、わかばクリニック・ナーシングホームわかば・訪問看護ステーションわかば・居宅介護支援事業所わかば・訪問介護ステーションわかばの5事業所の連携により、地域の皆さまの健康維持に貢献できるよう努めています。この5つの機能が連携することで、患者様および患者様のご家族、そして地域の皆さま方に寄り添い、健康で安心な暮らしを維持できるように職員一同努めています。

大切にしていること

- 1、患者様を常に身内と思って接する医療を行う
- 2、地域に根ざした心のこもった医療を行う
- 3、患者様の期待に応えるよう最大限努力する



院長 片山 貴文

【診療内容】※医療・介護何でもご相談ください！

内科、消化器内科（胃カメラ）、訪問診療、ダイエット外来、超高濃度ビタミンC点滴療法、水素吸入療法、エクソソーム点滴療法、NMN点滴療法、白玉点滴、プラセンタ注射、各種健康診断、予防接種、等

【診療時間】

●午前／ 8:30～12:00(受付11:45迄)

●午後／ 15:00～18:30(受付18:15迄)

※土曜日午後は15:00～17:00(受付16:45迄)

※休診日：日曜日・祝日

【アクセス】熊本市電／健軍町駅 徒歩6分

〒862-0903 熊本市東区若葉二丁目13-16 TEL.096-285-6014 Web: www.wakaba-cl.jp

提携医療機関紹介

みんなの熊本クリニック



当クリニックの院長の鈴木 博です。
僕は医学部卒業し、くわみず病院で研修医として勤務させて頂き済生会病院に勤務するまで15年ほど働かせて頂きました。
くわみず病院で訪問診療を経験させてもらい、いつかは訪問診療の医師として働きたいとの夢をもち医師としての経験を積んできました。昨年より中央区八王

寺で訪問診療専門のクリニックを開院しました。
僕は、くわみず病院や済生会病院にて「チーム医療」の大切さを学ばせて頂きました。
患者様に関わる様々な分野の方の意見をお伺いし診療をさせて頂いています。
患者様の急変時や診療方針の変更の時には当院クリニックのスタッフと家族、訪問看護師、ケアマネジャー、関連のある方々と話し合いの場を設けカンファレンスを行っております。
皆様の意見の中からその方に合う医療を提供できるよう努めて参ります。



緊急時においては365日24時間ご自宅へ往診を行います。訪問範囲は上記エリアとなっています。



お気軽にお問い合わせください。
〒861-0831 熊本県熊本市中央区八王寺町13-70-1 TEL.096-237-6838 FAX.096-237-6938